

①

しょうくんは、  
みどり幼稚園「おひさま組」の、  
自転車が大好きな男の子。  
6歳の誕生日を迎えたばかりです。  
「ボク、自転車、大好き♪  
ぐんぐん走ると  
気持ちいい〜♪♪」  
いつも遊びに行く「一丁目公園」に  
向かっているしょうくんは、  
とても気持ちよさそうに走っています。

②

スライ、スライ、ああ、いい気持ち。  
でも、ほら、よく見てごらん。  
しょうくんは、  
ヘルメットをかぶっていません。  
しかも、こんなにスピードを出して、  
大丈夫かなあ。  
〇〇組のみなさん、  
大丈夫だと思っつ？  
（おそろしく「だめだよー」と子どもたち  
から元気な返事が返ってくる）  
ぐんぐんスピード、  
もつとスピード、  
思いきりこいで、風みたいに走ろうっ！  
しょうくんが足に力を入れたとたんっ！  
（「とたんっ！」と共に、  
すぐさま紙芝居シートを引き抜く）

③

ガツンヤ〜〜ン☆…  
痛たたたたた…。  
たいへん！  
たいへん！  
一大事〜！  
自転車が石にぶつかって、  
しょうくんは  
倒れてしまいました！

④

「痛いよぉ〜〜!!!!」。

大変、大変!

大声で泣いている

しょうくんのアタマからは、

血がいつぱい流れ出ています。

自転車が倒れる音を聞きつけた近所の人が飛んできて、

すぐに、119番!!

救急車を呼んでくれました。

「大変です!

男の子が、今、自転車に乗っていて

倒れてしまいました。

アタマから血が流れています。

こちらは、みどり町「一丁目公園」の角です。

すぐに、

すぐに、

今すぐに来てください!!」

⑤

「ウ〜、ウ〜、ウ〜〜〜!!!!」

「私たち救急隊は、

怪我をした子どもを乗せて、

病院に向かっています!!

道路を走っているクルマのみなさん、

どうか

先に通してください!!」

(救急車の気持ちを代弁するように)

「ウ〜、ウ〜、ウ〜〜〜!!!!」

救急隊員の人たちは、

しょうくんを元気づけます。

「しょうくん、大丈夫だからね。

もう少しで病院に着くからね……」

⑥

病院に到着したしょうくんは  
すぐに救急救命室で

傷の手当てをしてもらいました。

お母さんが、知らせを受けて

病院に飛んできました。

「しょうくん!

よかった、無事で。本当によかった……」

お医者さんが、お母さんに向かって話しかけます。

「自転車に乗っている時に

ヘルメットをかぶっていたら、

こんな大怪我にはならなかったかもしれないね。

おうちにヘルメットはありませんか?」

しょうくんは、

ちよっとドキっとしました。

「あ! ウチにあったのに、

ボク、かぶるの忘れちゃった……」

⑦

(お医者さんが説明する口調で)  
「しょうくん、  
頭はとても大切なところなんだよ。」

頭に怪我をすると、  
“痛いー！”だけではないんだ。

大怪我をしてしまうと……、  
ご飯を食べて“おいしいなあ”  
と思うことも、

お友達と遊んで“楽しいなあ”  
と感じることも、  
できなくなってしまうかもしれないんだ。

ヘルメットは精一杯がんばって、  
みんなの大切な頭を、  
守ってくれるんだよ」

★ストーリーをスムーズに子どもたちに  
伝えるために、  
紙芝居上は、説明的な文言を、  
極力短くしました。

そのため、以下の内容(その他)は、  
紙芝居の実演が終わった後などに、  
反応をみつつ、  
改めて子どもたちに伝えます。

頭はとても大切な場所です。  
みんなが、  
いろいろなことを見たり、  
聞いたり、お話ししたり、  
覚えたりするために働いている、  
とても大切な場所です。

⑧

しょうくんは、  
お医者さんの話にうなずきながら  
いました。

「はい！」

これから自転車に乗るときは、  
必ずヘルメットをかぶります！」

お医者さんは、  
お母さんにもしっかり伝えます。

「お母さん、もしも、

しょうくんが、ついうっかりヘルメットを  
忘れそうになったら、  
どうぞ声をかけてくださいね」

しょうくんと、お母さんは、

一緒に答えました。

「はい！ わかりました！」

⑨

おかあさんは、お医者さんの話を聞きながら、

しよুকんの妹・ともみちゃんの

ことも思い浮かべました。

「ともみはまだ小さいので、

いつも私の自転車の後ろに

乗っています。

そういう時にも、

ヘルメットを忘れずに

かぶらないといけませんよね……」

お医者さんがお母さんに答えます。

「そう……」

自転車に乗る時は、

誰でも、どんな時でも、

ヘルメットをかぶることを

忘れずにいてくださいよね」

★この下段は主に保護者に向けて。

ただし、反応を見つつ、

子どもたちにも

「そして、もうひとつ大切なことが

あります。

ともみちゃんのような

小さい子どもは、

お母さんやお父さんの自転車の

前や後ろに乗ることが多いですね。

その時、

お母さんもお父さんも、絶対に、

自転車から離れないでくださいよね。

たとえヘルメットを

かぶっていたとしても、

自転車に乗ったまま倒れ込んだら

大変なことになりますから」

⑩

あれから2ヶ月が過ぎて、

しよুকんの頭の傷はすっかりよくなりました。

しよুকくんは、やっぱり自転車が大好きです。

今日も楽しく自転車の後ろに乗っています。

でも、今は、

ちゃんとヘルメットをかぶって走っていますよ。

もちろん、

スピードの出し過ぎにも注意しています。

〇〇組のみんなも、

自転車に乗るときは、

ヘルメットを忘れずにね！

「わかったら？」と子どもたちに問う。

おそろく、「はい」「……」と

子どもたちが返す。

